



高知県理学療法士協会ニュース

No.178 2023・6・20 発行 公益社団法人 高知県理学療法士協会

新しい時代の高知県理学療法士協会へ ～ 会長退任のご挨拶 ～

宮本 謙三

平成27年6月の就任以来、4期8年にわたって務めてきました会長職を、このたびの定時総会をもちまして退任することといたしました。長きにわたって支えてくださいました小笠原副会長ならびに大畑副会長をはじめ、理事、監事、部長・部員の皆さん、そして多くの会員の皆さんに厚く御礼申し上げます。また、私の前任でありました山本双一先生にも事務室運営に随分とご無理をお願いしてきました。心より感謝申し上げます。

会長就任当初に描いていた目指すべき高知県理学療法士協会の姿は、2,000名の会員を擁した公益社団法人で、複数の専従事務職員を配して様々な情報発信と会員の情報交換、学術研鑽の支援や処遇改善にも貢献できる職能団体の姿でした。残念ながらそのような姿には遠く及びませんでした。私の舵取りの未熟さや努力不足と反省する次第です。そして、在任中は行政や関連団体の方々と交わることも多く、人脈と見聞を広げる貴重な経験にもなりました。ありがとうございました。

この10年程の変化を顧みますと、第1には日本理学療法士協会が理学療法士連盟を設立し、職能団体としての要求実現に向け政治活動を始めたこと、第2には理学療法士の職域が医療機関から地域へと拡大し始めたこと、第3には会員増が頭打ちとなり協会組織率の低下が顕著になったこと、第4には若者から見て魅力ある職業に映らなくなっていること、第5には学術研鑽への努力が全体として希薄になったこと、などがあげられます。高知県も全国も同じ現象で、職業の魅力や学術研鑽、そして組織率や処遇改善などの問題は、全国の仲間と力をあわせて解決せねばならない課題です。さらに、これからの日本の医療や介護を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少社会の到来により大きく変化するに違いありません。人材獲得合戦が繰り広げられる中で、いかに社会的評価を高めるかも問われてきます。難しい舵取りになることは間違いなく、荒波を乗り越えるためには、気概のある新しいリーダーがふさわしいでしょう。

新しい役員の方々に、古い前例や慣習に縛られることなく、あらたな発想と行動力で若い会員の先頭に立ってほしいと願っています。そして会員の皆さんも、公益法人として社会に貢献することが、我々理学療法士の社会的評価を高めることに繋がることを認識していただき、互いに協力し合うようお願いしたいと思えます。

私事ですが、会長職を退きましても今しばらく教育現場に身を置き、後進の育成と学校運営に携わる予定です。引き続き高知県理学療法士協会の発展のために、一会員として出来る限りのサポートをしていきたいと思えます。今後も力を合わせて理学療法士協会のさらなる発展のために頑張っていきたいと思います。

長い間のご協力に重ねて感謝申し上げます、退任のご挨拶といたします。

No. 178

◇ 新しい時代の高知県理学療法士協会へ ～会長退任のご挨拶～	1	◇ 第51回四国理学療法士学会講師の紹介	7
◇ 施設紹介	2	◇ 自由投稿	8
◇ リレー紹介	4	◇ 知読万恵	9
◇ 第36回高知県理学療法学会 開催報告	5	◇ 理学療法週間のイベント情報	10
◇ 第36回高知県理学療法学会に参加・発表して	5	◇ 登録理学療法士の更新ポイントを取得できる!	10
◇ 第35回高知県理学療法学会 学会長賞を受賞して	6	◇ 賛助会員の皆様	11
◇ 第36回高知県理学療法学会 学会長賞を受賞して	6	◇ 令和5年度 学会・研修会予定表	12
		◇ 編集後記	12

施設紹介

株式会社Bridge えん訪問看護ステーション高知、南国



えん訪問看護ステーション南国 畔地 正大

えん訪問看護ステーション全店では『縁は人と人を繋ぎ、新しい縁を作る』『住み続ける』が選択できるように保険内外のサービスを通して地域の在宅医療をアップデートしていく、をコンセプトに日々取り組んでいます。高知県ではこの紹介文を読んでいらっしゃる方はご存じのことと想像されますが、高知県発表のデータで高齢化率35.5%、全国平均：28.6%で秋田県に続き第2位となっております。人口減少率でも高い水準で減少している県となっており、高齢化と人口減少が進んでいます。高知県は病院数が多く社会的入院がしやすい環境ではありますが、中山間地域の単独高齢者世帯も多い状況です。そのような中でえん訪問看護ステーション高知、南国では利用者様が、住み慣れた地域でご自宅に「住み続ける」を選択する限り全力でその選択を支援しています。

前述コンセプトを達成していくために、新入職員に対して訪問同行を2～3ヶ月の期間実施しており、新人職員が無理なく訪問できる環境作りをしています。そして、月に1度、約1時間程度のweb座談会を開催しており、web座談会では、「訪問看護とは？」や「訪問看護のリハビリって何をするの？」等のテーマで実施しており、これまで30回以上開催されております。

当事業所、社内の雰囲気としましては、代表や所長を中心に社員みんなの声を聞きながら、仕事と家庭の両立を考えた運営を行っており、とてもアットホームな職場です。南国店オープンの際は歓迎会、決起会では12人の参加者のうち9人が白い服という面白い状況になりました。そして、常々代表が「良いことも悪いこともみんなで共有して解決していく」と話されるのがとても印象的で、当事業所では月に一度高知、南国、東京、京都の全スタッフを繋ぎミーティングを開催、各拠点でも頻回に管理職ミーティングやスタッフミーティングを開催しております。会社の状況やその後の方針、各現場スタッフが日常の業務で困っていることなどの洗い出しを行い、状況に対し迅速に対応し解決策などをスタッフに共有していくように運営しています。併せて、会社の福利厚生として毎月全スタッフ出勤日に1人1000円の予算でランチを提供しております。ランチ内容は、グルメなスタッフが近隣のお弁当屋さんへ注文してくれ、いつもおいしくいただいております。



当事業所の採用についてはホームページ、SNS、スタッフによる紹介での募集となっています。特にSNSからの採用については採用確立が上がる傾向にあります。SNSですが、Instagram、Twitterを運用しております。興味のある方はSNSで「えん訪問看護ステーション」で検索してみてください。ここでは書ききれなかった日常のミーティングや業務風景、社食ランチなどの画像も載せております。訪問看護に興味があるけどなかなか1歩が踏み出せない。と思われる方も事業説明を聞くだけでも構いませんので、気軽にDMをいただければ適宜対応させていただきます。

最後になりますが、えん訪問看護ステーションは現場でのサービス提供、スタッフの働きやすさ全てで全国一の訪問看護ステーションを目指し運営しています。高知から全国へ。たくさんの方々との「えん」を大切にしながら前へ進んでいきたいと思っています。

株式会社 Bridge

縁は人と人を繋ぎ **新しい縁**を作る



えん訪問看護ステーション高知
(新園敷)



えん訪問看護ステーション南国
(篠原)

URL: <https://www.en-houkan.com>

コルセット・装具・義足・義手・杖

宮本義肢製作所

(社) 日本義肢協会 登録番号 中四国 143

代表者 門 脇 伸 仁

高知市土居町11-15 TEL & FAX (088) 8 3 3-6 8 6 4

会員紹介

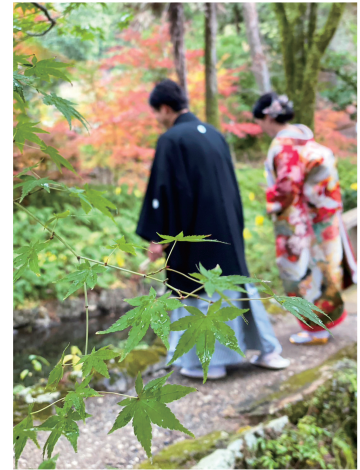
もみのき病院 元吉 由伎

初めまして、専門学生時代の同期の甫木啓徳さんからバトンを受け取りました、もみのき病院で勤めています元吉由伎です。バトンを渡してきた彼とは、サークル終わりに長い時間話したことや勉強をよく教えてもらった思い出があります。そんなことはさておき、私は以前に和歌山にある北出病院で約4年勤めさせていただきました。北出病院では療養病棟からはじまり、最後は急性期病棟で内部疾患や整形外科の患者様を多く担当してきました。また、和歌山医大で4ヶ月の研修をさせてもらったりと充実した4年を過ごしたと思います。

現在は、もみのき病院で急性期の脳外科患者様を多く担当していますが、はじめのことも多く勉強の日々です。

プライベートでは、高知へ帰ってきてから新しい出会いもあり昨年に結婚することができました。仲良かった地元の友達とすぐに遊べる距離でもあり、毎日楽しい日々を過ごすことができています。

さて、次はもみのき病院の同僚である、高橋涼子さんにバトンを渡したいと思います。



細木病院 白石 恭兵

こんにちは。

急遽、山本純也さんの代役となり、島津平くんからバトンを受け取りました白石恭兵と申します。旧姓は松田でしたので、そちらのほうがわかる方もいらっしゃるかもしれません。

島津くんとは彼が学生時代、当院へ評価実習に来て、私がバイザーをしたときからの仲です。定期的に遊びに行き、よく語り合ったりと大切な友人です。

私は旧高知リハビリテーション学院の40期生で細木病院に入職して13年目になります。現在は地域包括ケア病棟に配属され、3年目になります。施設基準の中で様々な社会的背景や病態の患者さんをいかに在宅復帰に繋げられるか？自分に何ができるのか？日々奮闘しております。

私の趣味のひとつはアニメ観賞です。好きな作品は田中芳樹さんによるSF小説（スペースオペラ）を原作とした『銀河英雄伝説』です。これは1988年に放映を開始され、現在はリメイク版も放映中です。興味がある方はぜひ観てください。

物語の舞台は今から数千年も先の未来世界、宇宙に進出した人類が二大陣営に分かれ、長きに渡り艦隊戦による戦いを繰り広げ、宇宙の覇権を争う物語です。

そこで繰り広げられる様々な登場人物たちの思惑、戦略や戦術など考え方が、私にとっては仕事の中でも通じるものがあり、影響を受けています。

私も所属部署の戦略（目標）に対し、配属ユニットで戦術（具体的な方法）を思考、判断、および実行（展開）して成果を出せるように頑張りたいと思います。

以上簡単ではございますが自己紹介とさせていただきます。

今回は専門学校からの友人である、安岡慶和くん**にバトンをつなぎたい**と思います。よろしくお願ひします。

ありがとうございました。



※バトンを引き受けた会員の皆様は、令和5年7月15日までにkouhou@kopta.netまで原稿をお送りください。

第36回高知県理学療法学会 開催報告



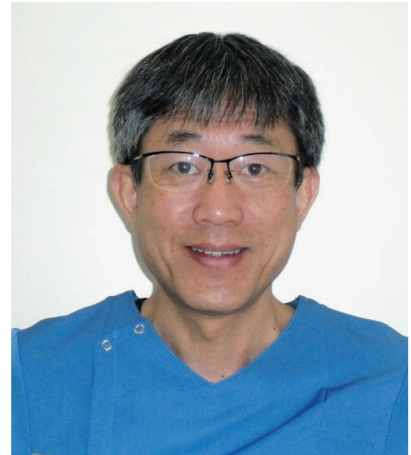
第36回高知県理学療法学会 学会長 和田 譲

令和5年2月26日（日）に第36回高知県理学療法学会が須崎市立市民文化会館で開催されました。当学会では初となる、会場からのライブ配信も行うハイブリッド形式となりました。

学会テーマは「卒後教育について考える」でした。専門職としての能力を職場内でどのように育てていくのかを考える機会として企画しました。特別講演は（公社）日本理学療法士協会常務理事の白石浩先生に「これからの卒後教育について考える ～あたらしい生涯学習制度をふまえて～」として、症例検討の有用性や新制度の活用などについてご教授いただきました。

一般演題では23題もの発表がありました。その中で新人教育に関する素晴らしい取り組みであった愛宕病院、榎本晃久会員の「当院における新人教育に対する取り組み」が学会長賞に選ばれました。また、第35回高知県理学療法学会で学会長賞を受賞した須崎くろしお病院、中山智晴会員の「認知症を有する重度パーキンソン病患者の立ち上がり動作練習」に対する表彰も行われました。おめでとうございます。

初めてのハイブリッド開催で準備から運営までご尽力いただいた学術部をはじめ、運営委員の協力のもと、参加者はこれまでで最多の256名となりました。心より感謝いたします。



第36回高知県理学療法学会に参加・発表して

芸西オルソクリニック 三谷 征也

今回、2023年2月26日に須崎市立市民文化会館で行われた第36回高知県理学療法学会へ参加・発表をいたしました。

遡ってみると2022年1月に「今年は発表する」と大学時代の同期と2022年の目標を定め、発表に向けて取り組んだ1年となりました。しかし、新人発表以来学術活動をしたことがなく、症例報告をしようと考えてはいたのですが、何をどのように発表しようかと悩みました。そのような状態でしたので大学時代の同期や高知医療学院の八坂先生（抄録作成、スライド作成等大変お世話になりました）に協力していただき何とか形にすることができました。当日は緊張から早口になるなど反省点も多々ありましたので次発表する際に生かせればと思います。今回、発表を通して、症例の現象の何を知らたくて何を評価するのか、どのように解釈して理学療法を実施するか、学術的な背景は何か、など日々当り前に行っている臨床を見直す機会となりました。

この文章が県士会ニュースに掲載されるのは6月とお伺いしています。掲載されている時期には次に向けて（今年は高知で四国理学療法士学会があります）取り組んでいれたらと思います。



✿ 第35回高知県理学療法学会 学会長賞を受賞して

須崎くろしお病院 中山 智晴

私の勤務先である須崎市で現地開催された第36回大会で、学生の頃にも臨床実習でお世話になった、前学会長の稲岡忠勝先生より、第35回の学会長賞をいただきました。演題名は、「認知症を有する重度パーキンソン病患者の立ち上がり動作練習－踵の補高とテープによる視覚的キューを用いた介入－」です。現在、高知大学大学院（医学専攻博士課程）でもパーキンソン病患者の基本動作に関する研究を行っており、博士課程の研究を行うきっかけとなった発表でもあったので、今回の受賞はとても励みになりました。

このような賞をいただいたのは、決して私だけの力ではありません。いつも臨床研究的確かなアドバイスをしていただける高知リハビリテーション専門職大学の山崎裕司先生をはじめ、職場の同僚や家族など、多くの方々のご協力のおかげです。改めて皆様に感謝いたします。今後は自身の専門領域を強化しつつ、まだ体力のある若いうちに、新たなことにも挑戦していきたいと思えます。



✿ 第36回高知県理学療法学会 学会長賞を受賞して

愛宕病院 榎本 晃久

この度は、学会長賞を授与していただき誠にありがとうございます。今回の演題は当院での新人教育をまとめたものであり、リハビリテーション部全体での取り組みが評価していただけたものと感じています。また受賞を機に改めて振り返ると、教育する者だけでなく、教育される者の努力があってこそ「教育」が成り立つということに気付かされました。

発表を通して自分の中で「教育」というものを、深く考えるいい機会になりました。業務と研修のバランス、課題量、個人の精神面のサポートなど、課題山積ではありますが、これからもより良い教育を目指し模索・試行錯誤に努めたいと想いを新たにいたしました。

最後になりましたが、学会長である和田先生をはじめとした運営スタッフの方に心から感謝を申し上げます。



第51回四国理学療法士学会「特別講演の講師紹介」

第51回四国理学療法士学会 学会長となりました島岡（高知県立あき総合病院）です。本学会は3年ぶりに現地・対面で開催する予定です。今回は本学会の特別講演のお願いしております先生方の紹介を致します。

第1日目（令和5年11月25日10:00-11:00）の特別講演は東海大学リハビリテーション科の正門由久先生に「神経生理学をリハビリテーション医学に応用する -筋電図の使い道-」をテーマにご講演いただく予定です。正門先生はリハビリテーション専門医で、我々が臨床現場で遭遇することの多い症状である「痙縮」、「脳卒中片麻痺」などの基礎研究について精力的にご活躍されている先生です。正門先生との出会いは、慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターに勤務していた時でした。当時の月が瀬リハセンターは、リハ専門医とともに脳卒中片麻痺の電気刺激療法、痙縮に対するストレッチや運動療法の効果に関する多くの研究を行っておりました。理学療法業務が終われば、夕方から筋電図などの研究機材の準備を行い、ストレッチ後の伸張反射を計測したり、片麻痺患者の自転車駆動時の筋活動を計測したりと、日々研究をしておりました。特に熱心に研究の指導をいただいたのが、今回の講師である正門先生です。今でも先生に指導していただいた知識や方法は、私の研究活動の基礎になっています。今回の特別講演では、正門先生に私の基礎となっている神経生理学、筋電図をご講演いただきたくお願い致しました。



第2日目（令和5年11月26日10:40-11:40）の特別講演は富士リハビリテーション大学の内田成男先生に「理学療法における臨床思考 -サイエンスとアートの両面から臨床を構築する-」をテーマにご講演いただく予定です。内田先生は、脳卒中中の理学療法をはじめとする神経系理学療法について、豊富な臨床経験と知識をお持ちの先生で、研究活動から臨床・学生教育、またPT協会での活動など幅広い分野でご活躍されている先生です。内田先生との出会いも正門先生と同じく、月が瀬リハセンターで、当時の理学療法室室長でした。私が新人PTのころからご指導いただいた先生で、私の理学療法士として「臨床思考」や「理学療法技術」に大きな影響を与えた先生です。当時の私は、内田先生が仕事をされる「背中」を見ながら、その姿勢や手の動きを真似て理学療法を実践していました。現在でも内田先生の理学療法は、私にとって「お手本」です。今回の特別講演では、内田先生のこれまでの経験や活動から理学療法における臨床思考についてご講演頂きたくお願い致しました。

私にとって正門先生、内田先生は、理学療法士として患者にどう向き合うのか、教えて頂いた先生であり、先生方とともに過ごした当時の月が瀬リハセンターは、知識や技術をはじめ研究方法などについて、たくさんの刺激、情熱を感じた場所でした。振り返ってみると本学会のテーマである「臨床を科学する」を、まさに実践していたリハ病院でした。学会ではお二人に再会し、またあの頃のようなディスカッションできることを心待ちにしております。ぜひとも多くの皆さまに、正門先生、内田先生の講演を聴講していただき、先生方の知識や熱意を感じていただきたく思います。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。（島岡）

第51回
四国理学療法士学会

*The 51th Academic Meeting of
Shikoku Society for Physical Therapist*

2023.
11/25-26
(土) (日)
高知県民文化ホール

— 臨床を科学する —

一般演題募集期間：令和5年4月10日～6月30日（正午）
参加登録開始時期：令和5年8月14日～





NPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク 第2回全国の集いin名古屋2023 高知プレ大会の参加報告

いずみの病院 久保 敦裕

2023年4月9日にNPO地域共生を支える医療・介護・市民全国ネットワーク、第2回全国の集いin名古屋2023高知プレ大会が開催され参加してきました。今回のプレ大会では①ノーリフティングケア、②ACP（人生会議）、③地域共生社会の現実に向けという3つのテーマに関して、病院・施設・役所関係の方がパネリストとして報告されていました。

当院からもノーリフティングケアに関して発表があり、当院と介護施設のノーリフティングケアの違いに関して学ぶことができ、病院スタッフより介護施設のスタッフの方がよりノーリフティングケアへの意識が高いと感じさせられました。当院においてもまだまだ病院スタッフの意識や知識不足などもあり、方法は知っていても実施できないこともあり、浸透していないのが現状です。ノーリフティングケア=介護における腰痛予防だけでなく、患者さんも安楽に動くことができるため、筋緊張亢進の緩和や予防など治療的側面からも導入が必要であり、多くの病院にも浸透する必要があると感じさせられました。

今回の研修で学んだことを日々の業務の中で活かし、また他のスタッフとも情報共有しノーリフティングケアの意識を浸透させていきたいと思えます。



私たちは、**福祉用具のレンタル販売・住宅改修**などを通じて、

快適な在宅介護をお手伝いします。



株式会社 **トーカー**

高知営業所 事業者番号：3970104919

〒781-0087 高知県高知市南久保 14-10

TEL 088-885-6511 FAX 088-885-5943

<https://www.tokai-corp.com/>

フリーダイヤル 0120-00-6500



運動の神話 (上) ・ (下)

〈 Daniel E. Lieberman 著, 中里京子 訳, 早川書房. 2022 〉

西洋医学の父である古代ギリシャのヒポクラテスは、治療の一手法として物理療法や運動療法も用いていた。しかし、ルネッサンス以降の近代医学では、物理療法が主流であった。それはヨーロッパのみでなくアメリカにおいてもであり、初期の物理療法学会が放射線学会の一部門から始まっていることからわかる。これが、第1次および第2次世界大戦を機に、特にアメリカにおいて戦傷兵を戦場復帰させるに、物理療法 physical agency より運動療法 therapeutic exercise を重視することとなり、理学療法の中心の座を占めるようになった。ゆえに、理学療法も物理療法も、英語では physical therapy (physiotherapy) なのだ…。

それでは、ヒトは常に動き続けるように創られているのだろうか、坐っているより歩き続けるようにできているのだろうか、それとも犬や猫のように多くの時間を休んでいて怠けているのが自然なのか。本著は、「運動 exercise とは、健康やフィットネスのための自発的な身体活動」と定義付けてのうえで、いわゆる『フィットネス fitness』や『歩き walking』が「健康に役立つのか?」「老化との関係は?」などに答えを求めようとした生物学者である著者の研究集大成である。

書中では、“筋の等尺性収縮 isometric contraction” 方法の発明や“歩き(ウォーキング)”が医学的治療の一手法になった時代など歴史も知ることができ、世界中の時代や文化を含めた考察で興味深い内容である。そして最終部は、現代人に適した運動量や歩きの量の指針を示し、「病気と運動」の関係でまとめられている。

理学療法士の糧である運動療法、日々の慣れが原点を置き去りにするが、本著が見つめ直しのキッカケになるかも!?



(山本双一)

* 書中、世界中の坐位姿勢についての文献「Hewes, G. (1953). Worldwide distribution of certain postural habits. American anthropologist 57:231-44.」が紹介されていて、インターネットで閲覧できる。

みんなが暮らしやすい住環境提案
リフォーム&福祉用具



<https://aico.tosagas.co.jp/>



aico
[あいこ]

★土佐ガス株式会社

●朝倉
☎088-828-8580

●しまんと
☎0880-35-4372

〒高知市朝倉西町1丁目10-16

☎月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

〒四万十市古津賀1丁目139

☎月曜～金曜 9:00～17:30 (祝日・年末年始を除く)

理学療法週間のイベント情報

メインイベント

日時：令和5年7月22日(土) 10:00~13:00

場所：金高堂書店 本店 ウッドデッキ

内容：運動機能評価、健康相談(バランスや転倒について)、広告物の配布

サブイベント

内容：「理学療法の現場」「理学療法紹介ってなんだろう」
の2つの動画をYouTubeで掲載

公開：令和5年7月17日(月)「理学療法の日」

登録理学療法士の更新ポイントを取得できる！

日本理学療法士協会が発行する雑誌『JPTA NEWS』と『Up to Date』の中にある、『コツコツ学ぼう！登録理学療法士 更新ポイント 問題解答』の問題に全問正解することで、登録理学療法士更新ポイント1ポイントを取得できます！全問正解するまで何度でもトライすることができます。

JPTA NEWS

偶数月(年6回)発行
日本理学療法士協会マイページにログインし、
[会員限定コンテンツ]内の[JPTA-Topics]からバックナンバーをご覧いただけます。

Up to Date

2・5・8・11月(年4回)発行 *2023年2月20日創刊
オンラインでの発行雑誌。日本理学療法士協会マイページにログインし、
[会員限定コンテンツ]内の[生涯学習支援]からご覧いただけます。

『JPTA NEWS』と『Up to Date』に掲載されているQRを日本理学療法士協会メンバーアプリで読み込むと問題を解くことができます。(マイページから申し込み解答する方法よりも、アプリでQRを読み込んだほうが簡便です。)

コツコツと問題に解答すれば、1年で10ポイントが取得できます！

※既に同カリキュラムコードでポイントを取得されている場合、ポイントの加算はありません。

また、同カリキュラムコードで0.5ポイントを取得されている場合も1ポイント(取得済ポイントよりも高いポイント)への上書きはされません。

日本理学療法士協会 メンバーアプリ
ダウンロードはこちらから



賛助会員の皆様

令和5年度賛助会員名簿

施設名	住所	診療科・他
(医)瑞洋会 田中整形外科病院	〒780-0901 高知県高知市上町3-2-6 TEL 088-822-7660 FAX 088-875-8583	整形外科、リハビリテーション科、麻酔科、 ペインクリニック内科、リウマチ科、内科(病棟)
(医)新松田会 高知医療学院	〒781-0270 高知市長浜6012-10 TEL 088-842-0412 FAX 088-841-1783	理学療法学科
(医)白菊会 白菊園病院	〒781-1154 土佐市新居萩の里1 TEL 088-856-1101 FAX 088-856-3364	内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、外 科、整形外科、脳神経外科、消化器外科、小児 科、リハビリテーション科
(医)仁智会 ヘルシーケアなはり	〒781-6402 高知県安芸郡奈半利町乙3740-1 TEL 088-738-5566 FAX 088-738-5564	入所、ショートステイ、通所(デイケア)
(学)土佐リハ学院 土佐リハビリテー ションカレッジ	〒781-5103 高知市大津乙2500-2 TEL 088-866-6119 FAX 088-866-6120	理学療法学科・作業療法学科
(社医)仁生会 細木病院	〒780-8535 高知市大膳町37番地 TEL 088-822-7211 FAX 088-825-0909	総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、 耳鼻咽喉科、緩和ケア科、放射線科、泌尿器科、 脳神経センター(脳神経外科)、専門外来、セ カンドオピニオン外来、病理診断科、麻酔科
(医)南の風 みなみの風診療所	〒780-0061 高知市栄田町3丁目7-1 TEL 088-826-3730 FAX 088-826-3731	リハビリテーション科、総合内科、在宅医療、 通所リハビリテーション、訪問リハビリテー ション
(医)五月会 須崎くろしお病院	〒785-0036 須崎市緑町4-30 TEL 088-943-2121 FAX 088-842-1582	内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、眼 科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、リハビリ テーション科、放射線科、麻酔科、人間ドック
(医)新松田会 愛宕病院	〒780-0051 高知市愛宕町1-1-13 TEL 088-823-3301 FAX 088-823-3306	内科、外科、整形外科、脊椎外科、脳神経外 科、婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、心 療内科・精神科、皮膚科、ER蘇生センター
(学)高知学園 高知リハビリテー ション専門職大学	〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 TEL 088-850-2311 FAX 088-850-2323	理学療法専攻・作業療法専攻・言語聴覚 学専攻

令和5年度 学会・研修会予定表(令和5年7月～10月)

日程	事業内容	主催
教育部	令和5年度 第1回教育部研修会 テーマ：脳卒中患者に対する病態に基づいた理学療法	令和5年7月16日(日)
	高知県理学療法士講習会 基本編技術 テーマ：呼吸リハビリテーションの基礎と臨床	令和5年8月予定
	令和5年度 第2回教育部研修会 テーマ：筋機能障害の基本	令和5年9月予定
会員区活動部	令和5年度 第1回安芸区域ブロック研修会 テーマ：フレイルについて	令和5年7月予定
	令和5年度 第2回安芸区域ブロック研修会 テーマ：がんリハビリテーション	令和5年9月予定
	令和5年度 第1回中央東区域ブロック研修会 テーマ：家族を含むチームでの発達支援について	令和5年9月予定
高知県臨床実習指導者講習会運営協議会	第19回高知県臨床実習指導者講習会	令和5年9月30日(土) ～10月1日(日)

編 集 後 記

梅雨の晴れ間が待ち遠しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今回の高知県理学療法士協会ニュース178号の巻頭言では、当協会を会長として4期8年間牽引されてこられた宮本謙三先生より頂戴した、退任のご挨拶を掲載させていただきました。長きに亘り協会運営にご尽力いただき、大変お疲れ様でございました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

さて、昨日より新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことで、県協会主催の研修会、イベントなどの様子も徐々にコロナ禍前の姿を取り戻してきたように感じます。7月に控えております「理学療法週間のイベント」では、久しぶりに一般の方と対面でのイベントを計画しており、盛り上がりにも期待が高まります。

また、今年の11月には第51回四国理学療法士学会が、高知県にて3年ぶりの対面形式で開催される予定です。今号でも、学会の講師を務められます先生方を紹介させていただきましたが、HPやSNSも活用しながら、さらに本学会を盛り上げていくべく、広報に努めて参りますのでご注目いただければと思います。

最後に、新生涯学習制度が開始されてはや1年が経ちましたが、履修ポイントの取得は順調に進んでおりますでしょうか？ まだまだ新制度に困惑されている会員も多いのではないかと思います。今号でも紹介しておりますように、研修以外でも更新ポイントを取得する方法など、少しでも会員の皆様に有益な情報があればお届けしていきたいと思っています。5月よりメルマガの配信もスタートし、できるだけ情報が行き届くよう工夫を凝らしておりますので、会員の皆様も情報の取りこぼしがないうちにお気をつけください。
(濱尾 英史)

高知県理学療法士協会ニュース No.178 令和5年6月20日発行

発行所 公益社団法人 高知県理学療法士協会

〒780-0054 高知県高知市相生町1-25 レジデンスノナミ107号室

TEL & FAX (088) 879-8023

http://www.kopta.net e-mail:jimukyoku@kopta.net

発行者 宮本 謙三

広報部編集委員会

